

加藤芳朗, 長沢敬之助, 鮫島輝彦,  
岡田博有先生をおくる

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2008-01-25 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 池谷, 仙之 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.14945/00000278">https://doi.org/10.14945/00000278</a>



Y. Kato



Kamishima

寛島輝彦

## 加藤芳朗, 長沢敬之助, 鮫島輝彦, 岡田博有先生をおくる

加藤芳朗教授, 長沢敬之助教授, 鮫島輝彦教授のお三人が1988年3月31日をもって停年退官されることになりました。また, 岡田博有教授は同年4月1日付けで九州大学に転任されることになりました。

加藤芳朗先生は1951年静岡大学農学部に赴任されて以来37年間, 農林地質学講座を担当され, その間終始一貫して農林業の基礎となる土壤の研究に打ち込んで来られました。土壤をあらゆる角度から考察された多数のご研究は国内外に広く知られ, また, 先生のご薰陶を受けた門下生の数は数えきれない程, 現在各分野で活躍しております。先生はご退官後, 磐田市に定住されると伺っておりますが, 県地学会の会長として引き続き県下の地学界にご指導を賜りたいと念願しております。

長沢敬之助先生は1977年静岡大学理学部地球科学科地殻化学講座の初代の教授として名古屋大学より赴任され, 以来10年7ヶ月間本学の地殻化学の教育, 研究をリードし, その充実発展に尽力されました。先生のご活躍は金属鉱床学, 粘土鉱物学の分野において独創的な多くの業績をあげられ, 内外の学界に大きな影響を与えてきたばかりでなく, 多くの関連学会の評議員, 会長として指導的な役割を果たして来られました。また, 先生は行政面においても優れた一面を発揮され, 本学の評議員, 理学部長などの多数の要職を歴任され, 大学の発展に貢献されました。ご退官後は引き続き清水市にお住いで, この春新設になった常葉学園浜松大学の教授としてご活躍の予定と伺っております。

鮫島輝彦先生は1951年静岡大学文理学部に赴任され, 1965年学部改組により発足した教養部に率先して移られ, 1974年ニュージーランドに渡られるまでの約23年間, 研究と教育に渾身尽されました。先生のご研究は学術的評価の高い沸石の鉱物学から超塩基性岩に至る一連の研究ばかりでなく, 火山, 地熱, 温泉, 鉱物資源, 自然災害といった人類に直接関わりを持つ地学現象に広く目を向けられ, 実に精力的に調査, 研究され, 多くの業績を残されました。これらの幅広い視野に立った先生のご講義は, どれだけ多くの学生を魅了したか計り知れません。ある日突然ニュージーランドに移住された先生は, そこでも火山, 地熱, 鉱物学の研究に熱意を燃やし, 多くの研究成果をあげられました。1986年地球科学科地殻物理学講座を担当していただくため, 13年間のニュージーランドを後に再び古巣の理学部にもどっていただきました。ご退官までの短かい2年でしたが, 先生にはその深い学識と国際感覚豊かな経験をもって, 地球科学科の更なる発展のため尽力していただきました。ご退官後は再びお子様方の待つ第二のふる里オークランド市に帰られると伺いました。日本とニュージーランドを学術と文化で結ぶかけ橋をいつまでも続けて下さることを念願いたします。

岡田博有先生は1976年地球科学科の設立と共に海洋地質学講座の初代教授として赴任され, 12年間日本で唯一最初の講座の充実発展に努力されました。この間先生のご性格がにじみ出た明解なご講義と端正な研究指導は, その教えを受けた多くの門下生に生涯忘れ得ぬ感銘として残っております。この春からは母校の九州大学理学部地質学科にもどられ, 古巣において研究にも一層の研ぎがかかるものと思います。

静岡大学地学教室連合（理学部, 教育学部, 教養部, 農学部）のビッグ4教授がここで同時にご退官, 転任されるという大変な事態に直面し, 今更ながら残された15名のスタッフは狼狽しております。本学地学教室の研究, 教育活動を名実ともにリードして来られた先生方でしたから, 私共のこれから活動に多くの不安を感じるのは当然のことであります。しかし, 先生方が永年にわたって着々と築

いて下さいましたどっしりとした基礎の上に、先生方のお志を引き継いで、すでに後任として赴任した三人の新スタッフ共々、立派な地球科学を着実に構築していくべく努力する所存であります。当面は先生方の深い学識と豊かな経験に代えて、平均年齢にして7.8才若返ったエネルギーを投入して本学地学連合の発展に務めたいと考えております。

先生方の研究、教育に与えられました今日までの業績を以下に記録し、その偉大なる寄与に心より感謝し、今後益々ご健在で私共をご指導下さいますことを念願いたしております。

ここにささやかではありますが一つの記念として、静岡大学地球科学研究報告の記念号を出版し、先生方に捧げます。

1988年4月1日

理学部地球科学教室  
池 谷 仙 之

## 加藤芳朗教授の履歴

か　とう　よし　ろう  
加　藤　芳　朗

大正13(1924)年10月16日生

**出身地** 静岡県磐田郡中泉町坂ノ上2496番地

**本籍** 同上

**現住所** 静岡県磐田市国府台53番地の4

### 学歴

- 昭和17(1942)年3月 静岡県立見付中学校卒業
- 昭和17(1942)年4月 静岡高等学校理科乙類入学
- 昭和19(1944)年9月 同上卒業
- 昭和19(1944)年10月 東京帝国大学理学部地質学科入学
- 昭和22(1947)年9月 同上卒業

### 職歴

- 昭和22(1947)年9月 静岡県立見付中学校教諭
- 昭和24(1949)年4月 静岡県立磐田第一高等学校教諭（翌年4月、名称変更で静岡県立磐田南高等学校教諭）
- 昭和26(1951)年4月 静岡大学農学部助手
- 昭和26(1951)年6月 静岡大学農学部講師
- 昭和31(1956)年7月 静岡大学農学部助教授
- 昭和47(1972)年6月 静岡大学農学部教授（大学院農学研究科兼任）
- 昭和63(1988)年3月 静岡大学農学部停年退官

### 非常勤講師

- 昭和24(1949)年 静岡農林専門学校
- 昭和25(1950)年 静岡農科大学
- 昭和41(1966)年～昭和43(1968)年 宮崎大学農学部
- 昭和45(1970)年 名古屋大学大学院農学研究科
- 昭和45(1970)年～昭和58(1983)年 静岡県林業講習所、同林業短大、同農林短大
- 昭和48(1973)年～昭和51(1976)年 東京教育大学農学部
- 昭和51(1976)年、昭和53(1978)年、昭和55(1980)年 岐阜大学大学院農学研究科
- 昭和58(1983)年 琉球大学農学部
- 昭和58(1983)年～現在 国立奈良文化財研究所
- 昭和61(1986)年 名古屋大学大学院農学研究科

昭和62(1987)年 都道府県土地分類調査現地検討会（国土庁，静岡県）

### 学 位

昭和38(1963)年 3月 理学博士 東京教育大学

論文名：“Mineralogical Study of Weathering Products of Granodiorite at Shinshiro City”

### 海外出張等

昭和36(1961)年 5月 東京教育大学へ内地留学（10ヶ月，指導教官：須藤俊男教授）

昭和48(1973)年11, 12月 ニュージーランドへ研修旅行（国際第四紀学連合大会へ出席）

昭和49(1974)年 8, 9月 ソビエト連邦へ研修旅行（国際土壤学会へ出席）

昭和52(1977)年 8月 マレーシアへ出張（国際土壤学会部会へ出席）

昭和55(1980)年 8月 韓国へ出張（日本学術振興会国際協同研究）

昭和55(1980)年11月 タイ国へ出張（日本学術振興会国際協同研究）

昭和56(1981)年 8月 韓国へ出張（日本学術振興会国際協同研究）

昭和56(1981)年12月 タイ国へ出張（日本学術振興会国際協同研究）

### 学界等における活動

昭和37(1962)年～昭和56(1981)年，昭和61(1986)年～現在 ペドロジスト懇談会評議員

昭和44(1969)年～昭和48(1973)年，昭和51(1976)年～昭和54(1979)年，昭和57(1982)年～昭和60(1985)年 日本粘土学会評議員

昭和44(1969)年～昭和53(1978)年，昭和55(1980)年～現在 日本第四紀学会評議員

昭和47(1972)年～現在 日本学術会議第四紀研究連絡委員会委員

昭和51(1976)年～現在 同上 古土壤国内小委員会委員長

昭和54(1979)年，昭和55(1980)年 土壤物理研究会評議員

昭和56(1981)年，昭和57(1982)年 日本土壤肥料学会評議員

昭和57(1982)年～昭和60(1985)年 ペドロジスト懇談会会长

昭和58(1983)年 遺跡保存方法調査研究委員会委員（文化庁，静岡県）

昭和59(1984)年，昭和60(1985)年 文部省学術審議会専門委員

昭和59(1984)年～現在 静岡県埋蔵文化財調査研究所評議員

昭和61(1986)年～現在 静岡県地学会会長

昭和62(1987)年～現在 International Quaternary Association (INQUA), member of Commission on Paleopedology

### 業 績 目 錄

#### 著 書

土壤一次鉱物，「日本の土壤型」，154-179，農文協（分担執筆）(1964).

鉱物分析，「関東ローム」，208-215，筑地書館（分担執筆，近藤精造と共に著）(1965).

- 土壤, 『地球科学講座「第四紀」』, 167-205, 共立出版 (分担執筆) (1971).
- 土壤生成因子の変遷と古土壤, 「植物栄養・土壤・肥料大事典」, 252-258, 養賢堂 (分担執筆) (1976).
- 土壤, 「地形と土壤」, 78-138, 東海大出版会 (分担執筆, 細野 衛と共に著) ( )
- 土と地盤中の粘土鉱物, 「土質工学における化学の基礎と応用」, 15-24, 土質工学会(分担執筆)(1978).
- 土壤生成因子, 母材, 「土壤調査法—野外研究と土壤図作製のための」, 70-91, 博友社(分担執筆)(1978).
- 土地条件編, 「磐田の自然」, 7-86, 磐田市誌編纂委員会 (分担執筆) (1979).
- 火山灰土の生成メカニズム, 「火山灰土—生成・性質・分類」, 5-30, 博友社 (分担執筆) (1983).
- 土壤生成・分類・調査. 「新土壤学」, 131-158, 朝倉書店 (分担執筆) (1984).
- 土壤とその中の粘土鉱物, 「粘土ハンドブック, 第2版」, 167-178, 技報堂 (分担執筆) (1987).
- 古環境解明のために土壤学は何を寄与しうるか, 「土壤学と考古学」, 7-31, 博友社 (分担執筆) (1987).
- 丘陵・台地—堆積岩起源土壤, 中～塩基性火成岩起源土壤, 土壤と時間, 「農業技術大系, 土壤施肥編, 第3巻土壤の性質と活用」, 91-101, 農文協 (分担執筆) (1987).

他 9編

### 原著論文

- 加藤芳朗 (1954), 磐田原北方地域の地形について. 静大教育浜松分校年報, No. 7, 89-97.
- 加藤芳朗・松井 健 (1954), 静岡県新所原附近の洪積土壤の研究 (第1報) 土壤断面形態と地形発達史との関係. 静大農研報, No. 4, 107-110.
- 松井 健・加藤芳朗 (1955), 静岡県新所原附近の洪積土壤の研究 (第2報) 母材の風化過程. 資源研彙報, No. 39, 1-11.
- 松井 健・加藤芳朗 (1957), 静岡県新所原附近の洪積土壤の研究 (第3報) 一般理化学性・鉱物組成について. 静大農研報, No. 7, 77-88.
- 松井 健・加藤芳朗・大竹一彦 (1958), 大井川右岸用水地区の土壤調査. 土肥誌, 29, 208-212.
- 加藤芳朗 (1960), 「黒ボク」土壤中の植物起源粒子について (予報). 土肥誌, 30, 549-552.
- 加藤芳朗 (1960), 東海地方東部の「黒ボク」土壤の細砂鉱物組成. 土肥誌, 31, 25-28.
- 加藤芳朗・松井 健 (1960), 富士西麓火山性水田土壤の調査と分類. 土肥誌, 31, 387-390.
- 加藤芳朗・近藤鳴雄 (1960), 富士西麓の「マサ」(盤層) について. 土肥誌, 31, 399-402.
- 加藤芳朗 (1961), 静岡市近郊日本平「黒ボク」土壤の粘土鉱物. 土肥誌, 32, 328-332.
- 松井 健・加藤芳朗・黒部 隆他2名 (1961), 沖積平野の水田土壤の分類にかんする一試案—静岡市周辺の例—. ペドロジスト, 5, 80-91.
- 加藤芳朗 (1961, 1962), 静岡県三方原および東縁段丘群の土壤 (第1～3報). 土肥誌, 32, 585-588; 33, 149-152, 247-249.
- 松井 健・加藤芳朗 (1962), 日本における赤色土壤の生成時代・生成環境にかんする一考察. 第四紀研究, 2, 161-179.
- 加藤芳朗 (1962), 関東ローム層の細砂鉱物組成. 地球科学, No. 62, 11-20.
- 加藤芳朗 (1962), 愛知県新城「黒ボク」土壤の粘土鉱物. 土肥誌, 33, 513-516.
- 加藤芳朗 (1962), 静岡県焼津市高草山「黒ボク」土壤の粘土鉱物. 土肥誌, 33, 517-520.
- 加藤芳朗 (1963), 静岡県磐田原「黒ボク」土壤の粘土鉱物. 「粘土科学の進歩, 4集」, 311-325, 技報堂.
- KATO, Y. (1964, 1965), Mineralogical study of weathering products of granodiorite at Shinshiro City (I～VI). *Soil Sci. Plant Nutr.*, 10, 258-263, 264-269; 11, 30-40, 62-73, 114-122, 123-128.

- 松井 健・加藤芳朗 (1965), 中国・四国地方およびその周辺における赤色土の産状と生成時期. 資源研叢報, No. 64, 31-48.
- 加藤芳朗 (1965), 花崗岩の風化(特に一次鉱物の風化過程). 「粘土科学の進歩, 5集」, 125-136, 技報堂.
- 加藤芳朗 (1967), 静岡県由比町における "Grumusol" 類似の土壤. ペドロジスト, **11**, 81-87.
- 愛鷹ローム団体研究グループ・加藤芳朗 (1969), 愛鷹山麓のローム層—東名高速道路工事現場を中心としてー. 第四紀研究, **8**, 10-21.
- 愛鷹ローム団体研究グループ・加藤芳朗 (1970), 愛鷹ローム上部ローム層中の埋没腐植層の <sup>14</sup>C 年代. 地球科学, **24-2**, 73-75.
- 加藤芳朗・中西寿彦・中田正志 (1970), 由比町の小河内泥岩に由来する土壤のモンモリロナイト鉱物. 静大地学研報, No. 2, 21-29.
- 加藤芳朗 (1970), 東海地方の「黒ボク」土壤の一般理化学性—火山灰土壤との対比を中心としてー. 土肥誌, **41**, 173-177.
- 加藤芳朗 (1970), 東海地方の「黒ボク」土壤の H<sub>2</sub>O<sub>2</sub>—脱鉄ータム逐次処理によるリン酸吸収係数の変化. 土肥誌, **41**, 218-224.
- 加藤芳朗 (1970), 腐植質土壤の非晶質成分の形態に関する一モデル(予報). ペドロジスト, **14**, 16-21.
- 加藤芳朗 (1970), 東海地方の「黒ボク」土壤の塩基吸着基特性と非晶質成分について(予報). 土肥誌, **41**, 257-261.
- 加藤芳朗 (1970), 東海地方西部の「黒ボク」土壤の結晶性粘土鉱物組成. 土肥誌, **41**, 301-306.
- 松井 健・加藤芳朗・吉川博恭他 2 名 (1971), 知多半島南部における地質・地形・土壤の対応関係. ペドロジスト, **15**, 87-97.
- 加藤芳朗 (1972), 日本における陸成腐植質土壤の非晶質成分の形態モデル. ペドロジスト, **16**, 92-106.
- 加藤芳朗 (1973), 愛鷹ローム上部ローム層の埋没腐植層中の非晶質成分. 第四紀研究, **12**, 11-18.
- 加藤芳朗 (1973), 東海地方の「黒ボク」土壤の吸着基特性(続). 土肥誌, **44**, 403-407.
- 佐瀬 隆・加藤芳朗 (1976), 現世ならびに埋没火山灰土腐植層中の植物起源粒子ーとくに植物珪酸体ーに関する研究(第 I, II 報). 第四紀研究, **15**, 21-33, 66-74.
- 加藤芳朗 (1977), 日本における陸成腐植質土壤の分類学的試論. ペドロジスト, **21**, 42-57.
- KATO, Y. (1980), A dark montmorillonitic, Vertisol-like soil from central Japan. "Proc. CLAMATROPS, 1977", 109-116, Malaysian Soc. Soil Sci.
- 加藤芳朗 (1980), テフラと斜交する黒土層. 軽石学雑誌, No. 6, 87-89.
- 加藤芳朗・宇津川徹・鈴木創三他 4 名 (1983), 東遠州灘海岸砂地地帯における耕地土壤の断面形態. 「火山灰と土壤—黒部 隆教授退官記念論文集ー」, 149-155, 博友社.
- 加藤芳朗・宇津川徹 (1983), 小笠原諸島の土壤ーとくにその生成分類についてー. ペドロジスト, **27**, 114-124.
- 加藤芳朗 (1984), 水音を聴いて流れを知るー溪流の面的流量調査ー. 環境情報科学, **13**(4), 63-67.
- 加藤芳朗 (1985), 山間小溪流での表層地質調査の 1 例. 静大農研報, No. 34, 47-57.
- 佐瀬 隆・加藤芳朗・牧野誠一 (1985), 富士山麓および天城山麓の火山灰土壤の植物珪酸体分析. ペドロジスト, **29**, 44-59.
- YOSHINAGA, N., KATO, Y., NAKAI, S. et al. (1986), Clay mineralogy of red- and yellow-colored soils from Korea. *Soil Sci. Plant Nutr.*, **32**, 113-133.
- 加藤芳朗・佐瀬 隆・堺井茂雄・金沢信夫 (1986), 累積火山灰断面腐植層中の植物珪酸体による年代

推定法(I, II). 第四紀研究, 25, 99-104, 105-111.

他 16編

### 総 説

- 加藤芳朗 (1959), 偏光顕微鏡による土壤細砂粒子の見わけ方. ペドロジスト, 3, 59-82.  
 加藤芳朗 (1964), 腐植にとむ土壤(「黒ボク」土壤)の生成に関する問題点. 第四紀研究, 3, 212-222.  
 加藤芳朗 (1965), 地学と土壤(その1, その2). 静岡地学, No. 2, 7-12; No. 3, 14-20.  
 加藤芳朗 (1965), 火山灰土壤の母材に関する問題. ペドロジスト, 9, 13-19.  
 加藤芳朗 (1967), 土壤と関連した表層地質の問題. 「柴田秀賢教授退官記念論文集」, 313-318.  
 加藤芳朗・生沼 郁・倉林三郎 (1967), 地質学における粘土科学の進歩. 「日本の地質学」, 327-348, 日本地質学会.  
 加藤芳朗 (1974), 火山灰土壤中の非晶質成分. 風化研究会会誌, No. 1, 14-16.  
 加藤芳朗・近堂祐弘・永塚鎮男 (1977), 古土壤. 「日本の第四紀研究, その発展と現状」, 189-206, 東大出版会.  
 加藤芳朗 (1977), 日本の土壤分類カテゴリーの検討. ペドロジスト, 21, 2-18.  
 加藤芳朗 (1977), 植物珪酸体—土の中の化石—. 静岡地学, No. 36, 4-16.  
 加藤芳朗・橋本与良 (1978), 日本の土壤—その生成学的側面—. 科学, 48, 286-295.  
 加藤芳朗 (1978), 有機質土(クロボク土壤)の生成と分類. 農業土木誌, 46, 869-876.  
 KATO, Y. and MATSUI, T. (1979), Some applications of paleopedology in Japan. *Geoderma*, 22, 45-60.  
 加藤芳朗 (1979), 土壤生成・分類における母材の意義. ペドロジスト, 23, 58-65.  
 MACHIDA, H., KATO, Y., KONDO, Y. and NAGATSUKA, S. (1981), Recent progress of Quaternary research in Japan: Tephra and paleosol studies. "Recent Progress of Natural Science in Japan", 6, 212-223, Science Council of Japan.  
 加藤芳朗 (1981), 静岡県の土壤. 中部土壤肥料研究, No. 53, 15-35, 中部土壤肥料研究会.  
 加藤芳朗 (1983), 中部地方の火山灰起源土壤. 「火山灰と土壤—黒部 隆教授退官記念論文集ー」, 253-258, 博友社.  
 加藤芳朗 (1984), 黒ボク土壤および類縁土壤. ペドロジスト, 28, 164-175.  
 加藤芳朗 (1985), 土地改变と土壤. 第四紀研究, 24, 197-205.  
 加藤芳朗 (1986), 热帯から暖温帯までの, 主として湿潤アジアの赤黄色の土壤. ペドロジスト, 30, 23-35.  
 加藤芳朗 (1987), 土壤研究の問題点. 第四紀研究, 26, 265-269.

他 8編

### 調査報告

- 加藤芳朗 (1957), 蛭塚遺跡付近の地形地質. 「蛭塚遺跡, その1」, 72-89, 浜松市.  
 望月勝海・鯨島輝彦・加藤芳朗 (1959), 大沢氾濫原調査報告. 「富士山大沢崩対策1」, 51-69.  
 加藤芳朗 (1964), 土壤(付土壤図). 「浜松市地質調査報告書」, 259-294, 浜松市.  
 加藤芳朗・広川 治 (1965), 土地分類基本調査, 5万分の1表層地質図「磐田・掛塚」, 同説明書, 22p., 経済企画庁.  
 近藤鳴雄・松井 健・加藤芳朗・黒部 隆・矢野義治 (1965), 静岡県基本土壤図(10万分の1, 2葉)

- 及び説明書, 65p. 静岡県.
- 加藤芳朗 (1966), 地形, 地質, 土壌(付地質図, 土壌図). 「南アルプス山麓県立自然公園候補地学術調査報告」, 1-20, 静岡県.
- 加藤芳朗 (1968), 地形・地質(付地質図). 「榛南県立自然公園候補地学術調査報告書」, 1-42, 静岡県.
- 県富美夫・近藤鳴雄・加藤芳朗他 3名 (1971), 縮尺20万分の 1, 土地分類図(土壌図)「静岡県」. 経済企画庁.
- 桐谷文雄・加藤芳朗他 7名 (1971), 縮尺20万分の 1, 土地分類図(表層地質図)「静岡県」. 経済企画庁.
- 加藤芳朗 (1972), 中川根演習林の地質(概報)(付地質図). 静大農演習林報告, No. 1, 1-2.
- 加藤芳朗 (1972), 土壌-表層地質地域区分説明書. 「昭和44・45年度国営農地開発事業横田・益田地区表層地質調査報告書」, 21-58, 中国・四国農政局.
- 加藤芳朗 (1972), 地形・地質. 「富士市浮島ヶ原地区, 土地利用基礎調査報告書」, 2-9, 富士市.
- 近藤鳴雄・県富美夫・加藤芳朗・鈴木 正・黒部 隆 (1972), 土地分類基本調査, 5万分の 1「浜松」  
土壌図, 同説明書. 静岡県. (他に同類の調査報告13編)
- 加藤芳朗 (1975), 焼土中の植物珪酸体から草本植生の推定. 「元野遺跡発掘調査報告書」, 48-49, 沼津市教育委員会.
- 加藤芳朗 (1977), 伊場遺跡をめぐる自然環境の地学的検討. 「伊場遺跡発掘調査報告書, 第 2 冊, 伊場遺跡遺構編」, 150-155, 浜松市教育委員会.
- 加藤芳朗 (1979), 地質(付地質図). 「太田川流域管理計画調査報告書」, 65-79, 林野庁.
- 加藤芳朗 (1979), 砂試料の粒径組成の検討. 「国鉄浜松工場内遺跡発掘調査概報」, 27-31, 浜松市教育委員会.
- 加藤芳朗 (1980), 調査地域の地学的特性. 「太田川流域管理計画調査報告書」, 3-8, 林野庁.
- 加藤芳朗 (1980), 開発可能性の地質因子からの評価. 「太田川流域管理計画調査報告書」, 140-144, 林野庁.
- 加藤芳朗 (1980), 寺谷遺跡をめぐる地形・地質・測定年代. 「寺谷遺跡発掘調査報告書, 本編」, 341-349, 磐田市教育委員会.
- 加藤芳朗 (1981), 流域内の自然立地条件と解析-表層地質. 「重要水源山地整備治山調査報告書(静岡県周智郡森町三倉地獄沢地内)」, 20-24, 水利科学研究所.
- 加藤芳朗・宇津川 徹 (1981), 父島の土壌. 「小笠原諸島自然環境現況調査報告書(2)」, 133-142, 東京都.
- 加藤芳朗 (1981), 大畠遺跡周辺の地学的背景と遺跡立地. 「袋井市大畠遺跡, 1951, 1977, 1978, 1980 年度の発掘調査」, 8-15, 袋井市教育委員会.
- 加藤芳朗 (1983), 有東遺跡をめぐる地形・地質的背景. 「有東遺跡 I」, 48-56, 静岡県教育委員会.
- 加藤芳朗 (1983), 表層地質と表流水の水理. 「重要水源山地整備治山調査報告書(静岡県周智郡森町太田川流域)」, 10-22, 水利科学研究所.
- 加藤芳朗 (1985), 坂尻遺跡をめぐる地形・地質学的背景. 「坂尻遺跡-自然科学編-」, 1-12, 袋井市教育委員会.
- 加藤芳朗 (1985), 清水市下野遺跡(B地区)の遺物包含層をめぐる地質学的検討. 「下野遺跡」, 152-156, 清水市教育委員会.
- 加藤芳朗 (1985), 土橋遺跡をめぐる地形・地質学的背景. 「土橋遺跡」, 10-25, 袋井市教育委員会.
- 加藤芳朗 (1985), 火山ガラスの探索. 「広野遺跡」, 19-28, 平安博物館.

- 加藤芳朗 (1986), 上阿多古演習林の地質(概報)(付地質図). 静大農演習林報告, No. 10, 99-102.
- 加藤芳朗 (1986), 簡便法によるモデル小流域における流量分布調査. 「昭和60年度特別重要水源山地整備治山調査報告書(山梨県甲府市荒川流域)」, 59-62, 水利科学研究所.
- 加藤芳朗 (1986), 簡便法によるモデル小流域における流量分布調査(続). 「昭和61年度特別重要水源山地整備治山調査報告書(山梨県甲府市荒川流域)」, 85-91, 水利科学研究所.
- 加藤芳朗 (1987), 駿府城三の丸遺跡における脈状砂について. 「駿府城三の丸遺跡」, 59-64, 静岡県教育委員会.
- 加藤芳朗 (1987), 焼津市小川地区遺跡立地の地形・地質・土壤学的検討. 「道場田・小川城遺跡III, 宮之腰遺跡II, 道下遺跡」, 127-140, 焼津市教育委員会.
- 加藤芳朗 (1987), 清水市押切石川遺跡の土層の地質学的検討(続). 「石川遺跡」, 18-22, 清水市教育委員会.

他22編

### 見学旅行案内

- 加藤芳朗 (1955), 三方原台地の地形地質について. 普及だより, 7(11), 1-4, 静岡県農産課.
- 加藤芳朗 (1958), 日本平付近の地形地質概観. 普及だより, 10(11), 1-4, 静岡県農産課.
- 加藤芳朗 (1961), 富士山麓の地形・地質概観. 「1961年度野外見学旅行, 見学のしおり」, 3-18, ペドロジスト懇談会.
- 加藤芳朗 (1963), 浜名湖西岸の地形地質概観; 新所原ふきんの土壤. 「1963年度愛知・静岡両県下見学旅行, 見学のしおり」, 9-10, 21-27, ペドロジスト懇談会.
- 加藤芳朗 (1965), 「静岡県西端部および愛知県鳳来寺山一帯の地質」. 静岡県地学会資料, 2, 16p.
- 加藤芳朗 (1966), 「天竜川流域の地学案内」. 静岡県地学会資料, 8, 21p.
- 加藤芳朗 (1967), 静岡ふきんの地形・地質概観. 「1967年度第14回野外見学旅行案内」, 1-10, ペドロジスト懇談会.
- 加藤芳朗 (1968), 「静岡県北西端の中央構造帯周辺の地質」. 静岡県地学会資料, 15, 16p.
- KATO, Y. (1980), Pedological aspect on soils derived from Fuji tephras. "Roadlog for Excursion DT-1, Fuji, Hakone Volcanos and Oiso Coast, XXIV IGC, Tokyo", 22-27.
- 加藤芳朗 (1987), 静岡県の土壤と土地利用. 昭和62年度都道府県土地分類調査現地検討会資料, 76-92, 国土庁.

他 4 編

### その他

- 辞典の項目説明, 啓蒙普及, 卷頭言, 短報など

66編

## 長沢敬之助教授の履歴

なが さわ けい の すけ  
長 澤 敬 之 助

大正13(1924)年10月26日生

**出身地** 東京都北区（旧東京府北豊島郡滝野川町）田端126番地

**本籍** 愛知県名古屋市昭和区山手通2丁目14番地

**現住所** 静岡県清水市北矢部915番地9

### 学歴

- 昭和16(1941)年3月 武藏高等学校尋常科修了
- 昭和16(1941)年4月 同上高等科理科乙類進学
- 昭和18(1943)年9月 同上卒業
- 昭和18(1943)年10月 東京帝国大学理学部地質学科入学
- 昭和23(1948)年3月 東京大学理学部地質学科卒業
- 昭和23(1948)年4月～昭和26(1951)年3月 同上大学院在籍

### 職歴

- 昭和26(1951)年5月 文部教官, 名古屋大学講師(理学部)
- 昭和29(1954)年2月 名古屋大学助教授(理学部)
- 昭和52(1977)年9月 静岡大学教授(理学部)
- 昭和58(1983)年4月 静岡大学評議員(併任)
- 昭和59(1984)年4月 静岡大学理学部長(併任)
- 昭和63(1988)年3月 静岡大学停年退官

### 非常勤講師

- 昭和26(1951)年度 名古屋大学瑞穂分校
- 昭和26(1951)年度～昭和44(1969)年度 名古屋大学工学部
- 昭和36(1961)年度 静岡大学文理学部
- 昭和42(1967)年度, 昭和44(1969)年度, 昭和46(1971)年度, 昭和48(1973)年度, 昭和50(1975)年度  
岐阜大学教育学部
- 昭和42(1967)年度, 昭和43(1968)年度, 昭和46(1971)年度 東北大学理学部
- 昭和47(1972)年度 山梨大学工学部
- 昭和47(1972)年度～昭和51(1976)年度 名古屋大学農学部
- 昭和47(1972)年度, 昭和49(1974)年度 静岡大学理学部
- 昭和48(1973)年度 東京大学理学部
- 昭和53(1978)年度, 昭和55(1980)年度, 昭和57(1982)年度 名古屋大学理学部

昭和56(1981)年度 熊本大学理学部  
 昭和57(1982)年度 信州大学理学部  
 昭和58(1983)年度 広島大学理学部

#### 学 位

昭和36(1961)年9月 理学博士 名古屋大学  
 論文名：「新潟県三川鉱山の鉱化作用の研究」

#### 表 彰

昭和39(1964)年1月 日本鉱山地質学会論文賞受賞

#### 海外出張等

昭和40(1965)年8月～9月 アメリカ合衆国, 連合王国, フランスへ研修旅行（北米粘土会議および第1回国際熱分析会議出席）  
 昭和45(1970)年2月～昭和46(1971)年2月 連合王国, フランス, 西ドイツへ出張(Rothamsted Experimental Stationにおいて研究)  
 昭和49(1974)年7月～8月 フィリピン, パプアニューギニア, 英領ソロモン, オーストラリアへ研修旅行(鉱床見学など)  
 昭和50(1975)年7月～8月 アメリカ合衆国, メキシコへ研修旅行（第5回国際粘土会議出席）  
 昭和53(1978)年7月 連合王国, 西ドイツ, オーストリアへ研修旅行（第6回国際粘土会議およびIGCPカオリンシンポジウム出席）  
 昭和56(1981)年9月 イタリーへ研修旅行（第7回国際粘土会議出席）  
 昭和60(1985)年7月～8月 アメリカ合衆国へ研修旅行（第8回国際粘土会議出席）

#### 学界等における活動

昭和41(1966)年6月～昭和43(1968)年6月 日本学術会議地質学研究連絡委員会委員  
 昭和41(1966)年11月 國際粘土会議組織委員会委員  
 昭和44(1969)年6月～昭和48(1973)年3月 金属鉱物探鉱促進事業団長棟地域広域調査班長  
 昭和44(1969)年3月～昭和45(1970)年12月 学術審議会専門委員  
 昭和52(1977)年8月～昭和59(1984)年7月 金属鉱業事業団広域調査および精密調査(長棟地域, 飛驒地域, 伊豆地域)検討員  
 昭和56(1981)年6月～昭和60(1985)年7月 日本学術会議地質学研究連絡委員会委員  
 昭和56(1981)年9月～現在 AIPEA(国際粘土研究連合)評議員  
 昭和57(1982)年11月～昭和58(1983)年10月 日本粘土学会副会長  
 昭和59(1984)年5月～昭和61(1986)年5月 日本鉱物学会会長  
 昭和60(1985)年10月～昭和61(1986)年10月 日本粘土学会会長

## 業 績 目 錄

### 著 書

- [鉱床学の進歩], 加藤武夫先生記念出版編集委員会編, 28-41, 412-413 執筆, 富山房 (1956).
- [粘土ハンドブック], 日本粘土学会編, 28-40 執筆, 技報堂 (1967).
- [The Clays of Japan], Edited by Editorial Subcommittee for "The Clays of Japan", Organizing Committee, 1969 International Clay Conference : 17-70, coauthored by H. TAKASHI, N. FUJII and E. HACHISUKA. Geological Survey of Japan (1969).
- [Clays and Clay Minerals of Japan], Edited by T. SUDO and S. SHIMODA : 105-125, 189-219, Kodansha/Elsevier (1978).
- [粘土ハンドブック第二版], 日本粘土学会編, 1-2, 6-7, 18-27, 32-35, 54-58, 98-106, 151-167, 執筆および編集委員長, 技報堂 (1987).

### 辞典への協力

- [化学大辞典 1～10], 化学大辞典編集委員会編, 執筆者, 共立出版 (1960～63).
- [粘土の事典], 岩生周一・長沢敬之助・宇田川重和・加藤忠蔵・喜田大三・青柳宏一・渡辺 裕編, 執筆者および編集委員, 朝倉書店 (1985).
- [セラミックス辞典], 窯業協会編, 執筆者, 丸善 (1986).

### 論 文

- 長沢敬之助 (1951), 新潟県三川鉱山の地質と鉱床. 地質雑誌, **57**, 357-365.
- SUDO, T., MINATO, H. and NAGASAWA, K. (1951), Special kaolinitic clay from Shichinohe-machi, Aomori Prefecture. *Jour. Geol. Soc. Japan*, **57**, 473-480.
- SUDO, T., NAGASAWA, K., AMAFUJI, M., KIMURA, M., HONDA, S., MUTO, T. and TANEMURA, M. (1952), Studies on differential thermal analysis curves of Japanese clay minerals. *Jour. Geol. Soc. Japan*, **58**, 115-130.
- NAGASAWA, K. (1953), Kaolinite from the Mikawa mine, Niigata Prefecture. *Jour. Earth Sci., Nagoya Univ.*, **1**, 9-16.
- 須藤俊男・長沢敬之助・岩生周一・大森えい子 (1953), 新潟県三川鉱山の母岩の変質. 鉱山地質, **3**, 87-94.
- NAGASAWA, K. (1953), Differential thermal analysis studies on the high-low inversion of vein quartz in Japan. *Jour. Earth Sci., Nagoya Univ.*, **1**, 156-176.
- 長沢敬之助・都築芳郎 (1955), 示差熱分析曲線に関する二三の吟味. 鉱物雑誌, **2**, 93-103.
- 長沢敬之助 (1956), 島根県大阪松代石膏鉱山産の粘土鉱物について. 地学研究, **9**, 16-19.
- TSUZUKI, Y. and NAGASAWA, K. (1957), Differential thermal analysis curves for clay minerals as related to the kinetics of their dehydration. *Jour. Earth Sci., Nagoya Univ.*, **5**, 153-182.
- 都築芳郎・長沢敬之助 (1959), 示差熱分析曲線のピークの形について. 粘土科学の進歩(1), 技報堂, 144-158.
- 長沢敬之助 (1959), 黒窓第五号窯の構成鉱物について. 愛知県猿投山西南麓古窯址群, 愛知県教育委員会, 付篇 II, 3-11.

- 都築芳郎・長沢敬之助 (1960), アロフェンの発熱反応についての一考察. 粘土科学の進歩(2), 技報堂, 377-384.
- 長沢敬之助・都築芳郎 (1960), 示差熱分析法の理論, 窯業協会誌, 68, C321-329.
- SUWA, K. and NAGASAWA, K. (1961), A correction diagram for measuring an inclination angle with the universal stage. *Jour. Earth Sci., Nagoya Univ.*, 9, 29-32.
- NAGASAWA, K. (1961), Mineralization at the Mikawa mine, northeastern Japan. *Jour. Earth Sci., Nagoya Univ.*, 9, 129-172.
- 長沢敬之助 (1962), 新潟県三川鉱山の鉱化作用に関する 2, 3 の考察. 鉱山地質, 12, 211-222.
- 長沢敬之助 (1962), 常滑付近に産する粘土の鉱物組成. 愛知県知多古窯址群, 愛知県教育委員会, 付篇 1-6.
- 都築芳郎・長沢敬之助 (1963), カオリン鉱物の 980°C付近の発熱反応について. 粘土科学の進歩(4), 技報堂, 1-13.
- 都築芳郎・長沢敬之助 (1963), カオリナイトの吸熱反応の電子顕微鏡による研究. 粘土科学の進歩(4), 技報堂, 15-22.
- 長沢敬之助 (1964), 伊勢湾台風に伴う高潮による堆積物の鉱物学的研究. 伊勢湾台風災害の調査研究報告, 名古屋大学災害科学調査会, 123-126.
- 長沢敬之助 (1965), 野間層堆積物の鉱物組成. 名古屋地学, 20-21, 2-8.
- TSUZUKI, Y. and NAGASAWA, K. (1965), Kinetics of the exothermic reaction of kaolin minerals at about 980°C. *Thermal Analysis '65, Proc. 1st Intern. Conf. Therm. Anal.*, Aberdeen, Macmillan, 200-201.
- 長沢敬之助 (1966), 知多半島野間層における粘土鉱物の生成と変化. 粘土科学, 6, 3-13.
- 長沢敬之助 (1968), 鉱物学における示差熱分析. 熱・温度測定と示差熱分析, 1968, 科学技術社, 133-144.
- TSUZUKI, Y., NAGASAWA, K. and ISOBE, K. (1968), Weathered biotite from Matsusaka, central Japan. *Mineral. Jour.*, 5, 365-382.
- NAGASAWA, K. (1969), Kaolin minerals in Cenozoic sediments of central Japan. *Proc. Intern. Clay Conf., Tokyo, 1969*, 1, 15-30.
- TSUZUKI, Y. and NAGASAWA, K. (1969), A transitional stage to the 980°C exotherm of kaolin minerals. *Clay Sci.*, 3, 87-102.
- 長沢敬之助・国枝勝利 (1970), 岐阜県苗木地域の粘土鉱床とそれに産するカオリン鉱物. 鉱山地質, 20, 361-377.
- 長沢敬之助・石岡孝吉・湯佐泰久 (1972), 大崩海岸地域の岩石と変質. 静岡・大崩海岸の山崩れ災害に関する地質学的研究, 研究報告論文集, 35-46.
- 長沢敬之助 (1972), 風化過程におけるウンモの変質. 鉱物雑, 10, 528-539.
- 長沢敬之助 (1973), 混合層鉱物の産状. 粘土科学, 13, 15-22.
- 鈴木和博・都築芳郎・長沢敬之助 (1974), 岐阜県春日村産緑泥石-モンモリロナイト規則混合層鉱物. 鉱物雑, 11, 特別号 1 号, 130-135.
- NAGASAWA, K. and TSUZUKI, Y. (1974), Expansion-collapse characteristics of interstratified chlorite-montmorillonite. *Clay Sci.*, 4, 191-198.
- NAGASAWA, K., BROWN, G. and NEWMAN, A.C.D. (1974), Artificial alteration of biotite into a 14 Å layer silicate with hydroxy-aluminium interlayers. *Clays Clay Minerals*, 22, 241-252.

- 長沢敬之助 (1974), 熱分析における動力学的解析—鉱物学における研究の動向一. 熱・温度測定と熱分析, 1974 年版, 日本熱測定学会編, 科学技術社, 57-68.
- 長沢敬之助 (1974), 粘土鉱物の X 線回折法による同定. X 線分析の進歩VI, 日本分析化学会 X 線分析研究懇談会編, 科学技術社, 15-22.
- 長沢敬之助・輕部和夫 (1975), 濱戸層群中の大田・東郷・上野火山灰層にみられる粘土化. 須藤俊男教授退官記念論文集, 180-184.
- NAGASAWA, K. and MIYAZAKI, S. (1976), Mineralogical properties of halloysite as related to its genesis. *Proc. Intern. Clay Conf.*, 1975, 257-265.
- 長沢敬之助・白水晴雄・中村 威 (1976), 鉱脈鉱床中に産する粘土鉱物. 本邦の鉱脈鉱床—その生成の機構と条件一, 鉱山地質特別号, 7, 75-84.
- NAGASAWA, K. (1976), Geology and mineralogy of kaolin deposits of supergene origin in Japan. *The 7th Symposium on Genesis of Kaolin*, 32-45.
- 長沢敬之助 (1977), 粘土鉱物における鉱物種の問題点. 鉱物雑誌, 13, 115-120.
- 長沢敬之助 (1977), カオリナイトとハロイサイトをめぐる 2, 3 の問題. 鉱物雑誌, 13, 特別号, 3-16.
- 松田敏彦・長沢敬之助 (1977), 雲母ースメクタイトおよび緑泥石ースメクタイト規則混合層鉱物における膨張層の性質の比較. 鉱物雑誌, 13, 特別号, 111-118.
- 長沢敬之助 (1978), カオリン鉱物の生成と変化に関する研究—とくにカオリナイトとハロイサイトの産状と鉱物学的性質との関係について一. 静大地科研報, 3, 17-33.
- 長沢敬之助 (1978), 北関東における火山碎屑物の風化に関する一事実. 粘土科学, 18, 68-71.
- 長沢敬之助 (1978), カオリナイトとハロイサイトの判別に関する 2, 3 の問題. 渡辺万次郎先生米寿記念論集, 271-275.
- 長沢敬之助 (1978), カオリン鉱物の鉱物学における 2, 3 の問題—とくに名古屋周辺の粘土鉱床に関連して一. 粘土科学, 18, 85-90.
- 丸茂克美・長沢敬之助・黒田吉益 (1979), 日本各地のカオリン鉱物の水素同位体組成. 岩鉱, 74, 294-300.
- MARUMO, K., NAGASAWA, K. and KURODA, Y. (1980), Mineralogy and hydrogen isotope geochemistry of clay minerals in the Ohnuma geothermal area, northeastern Japan. *Earth Planet. Sci. Letters*, 47, 255-262.
- 長沢敬之助 (1980), 混合層粘土鉱物の成因に関する一視点. 日本岩石鉱物鉱床学会 50 周年記念論集, 岩鉱, 特別号 2 号, 133-139.
- NORO, H., NAGASAWA, K. and TOKONAMI, M. (1980), Major element composition of clay minerals in the Murchison (C2) carbonaceous chondrite matrix. *Proc. 5th Symposium Antarctic Meteorites*, 311-317.
- 松田敏彦・逸見吉之助・長沢敬之助・本多朔郎 (1981), 雲母ースメクタイト規則混合層鉱物の化学組成と X 線的性質. 鉱物雑誌, 15, 特別号, 96-106.
- NAGASAWA, K., NORO, H. and ITO, M. (1981), Beidellite from the Seigoshi mine, Shizuoka Prefecture, Japan. *Mineral. Jour.*, 10, 233-240.
- MATSUDA, T., NAGASAWA, K., TSUZUKI, Y. and HENMI, K. (1981), Regularly interstratified dioctahedral mica-smectite from Roseki deposits in Japan. *Clay Minerals*, 16, 91-102.
- WADA, H., NIITSUMA, N., NAGASAWA, K. and OKADA, H. (1981), Deep sea carbonate nodules from the Middle America Trench area off Mexico, Deep Sea Drilling Project Leg 66. *Init.*

*Repts. DSDP*, **66**, 453-474.

長沢敬之助 (1981), 金銀鉱床に産する粘土鉱物の特徴. 日本の金銀鉱床, 鉱山地質特別号, **10**, 227-233.

中川昌治・長沢敬之助 (1982), 静岡県高草山地域に産する沸石などの二次鉱物, 静大地科研報, **7**, 51-59.

MARUMO, K., MATSUHISA, Y. and NAGASAWA, K. (1982), Hydrogen and oxygen isotopic compositions of kaolin minerals in Japan. *International Clay Conference 1981*, 315-320.

SHIIKAWA, M., UEDA, Y. and NAGASAWA, K. (1983), Geochemical exploration for geothermal energy. *MMI/AusIMM Joint Symposium 1983, Sendai Oct. 6-8*, Session JA, 193-204.

長沢敬之助・柴田 賢 (1985), 神岡鉱山産セリサイトのK-Ar年代とそれにもとづく鉱床生成年代の考察. 鉱山地質, **35**, 57-65.

長沢敬之助 (1985), 地球科学における熱測定. 热測定, **12**, 136-141.

長沢敬之助 (1986), カオリン鉱物の加熱変化, とくにNMR, ESRによるアプローチについて. 鉱物雑, **17**, 195-205.

NAGASAWA, K. and NORO, H. (1987), Mineralogical properties of halloysites of weathering origin. *Chem. Geol.*, **60**, 145-149.

WATANABE, T., SHIMIZU, H., NAGASAWA, K., MASUDA, A. and SAITO, H. (1987),  $^{29}\text{Si}$ - and  $^{27}\text{Al}$ -MAS/NMR study of the thermal transformations of kaolinite. *Clay Minerals*, **22**, 37-48.

長沢敬之助 (1987), カオリン質粘土の鉱床学. 粘土科学, **27**, 53-61.

NAGASAWA, K. and NORO, H. (1987), An electron spin resonance study of halloysites. *Clay Sci.*, **6**, 261-268.

長沢敬之助 (1988), 粘土鉱物と生命の起源. 静大地球科学研報, **14**, 27-34.

### その他

長沢敬之助 (1959), 層状ウラン鉱床について. 名古屋地学, **14**, 3-5.

長沢敬之助 (1967), 風化, 堆積作用に伴なう粘土鉱物の生成と変化－名古屋周辺地域の新第三系, 第四系における実例－. 堆積学に関する諸問題, 日本地質学会・日本鉱山地質学会・日本鉱物学会・日本岩石鉱物鉱床学会・日本粘土学会連合学術大会討論会資料, 38-42.

長沢敬之助・鈴木重人 (1967), 知多半島の鉱物と粘土鉱床. 地質見学案内書, 24p.

長沢敬之助 (1967), 示差熱分析の理論. 热分析講習会テキスト, 窯業協会, 43-60.

長沢敬之助 (1968), 鉱脈に伴う変質. グリーンタフ地域の変質, 日本岩石鉱物鉱床学会・日本鉱山地質学会連合学術講演会, 101-107.

長沢敬之助 (1968), 粘土鉱物の熱分析. 原料粘土の鉱物組成決定法とその活用に関する講習会テキスト, 窯業協会, 159-189.

NAGASAWA, K. (1969), Nagoya and its neighbourhood. *Clay Minerals, Clay Deposits, Zeolite Deposits, Volcanic Ash Soils and Volcanoes, Guide to Field Trip B, C, and D, 1969 International Clay Conference*, 27-36.

NAGASAWA, K. and TSUZUKI, Y. (1976), Kaolin deposits around Nagoya. *Geology of the Seto, Shokozan and Itaya Kaolin Deposits, - A Guide to the Field Investigations-, The 7th Symposium on Genesis of Kaolin*, 1-9.

長沢敬之助 (1982), 膨脹性粘土鉱物とX線回折. 理学電機ジャーナル, **13**, 39-42.

長沢敬之助 (1983), 堆積成カオリン鉱床の成因に関する研究. 昭和57年度科学研究費補助金(一般研

究 C) 研究成果報告書, 10p.

長沢敬之助 (1987), 地学用語雑感. 静岡地学, **55**, 7-12.

長沢敬之助 (1988), 粘土鉱物の加熱の際の水の挙動の研究. 昭和 62 年度科学研究費補助金(一般研究 A) 研究成果報告書, 10p.

## 鮫島輝彦教授の履歴

さめ しま てる ひこ  
鮫 島 輝 彦

大正13(1924)年11月30日生

**出身地** 東京都文京区小石川駕籠町138

**本籍** 静岡市清水市草薙1695ノ1

**現住所** 8 Epping Street, Glen Innes Auckland 6, New Zealand

### 学歴

- 昭和12(1937)年4月 東京高等師範学校付属中学校入学
- 昭和17(1942)年3月 同上卒業
- 昭和17(1942)年4月 私立成蹊高等学校理科甲類入学
- 昭和19(1944)年9月 同上卒業
- 昭和19(1944)年10月 東京帝国大学理学部鉱物学科入学
- 昭和22(1947)年9月 同上卒業 理学士
- 昭和22(1947)年10月 東京大学大学院(理学研究科地質学)入学
- 昭和26(1951)年10月 同上修了

### 職歴

- 昭和23(1948)年4月 私立東京農業大学講師
- 昭和26(1951)年9月 同上退職
- 昭和26(1951)年10月 静岡大学講師(文理学部)
- 昭和28(1953)年11月 静岡大学助教授(文理学部)
- 昭和40(1965)年4月 静岡大学助教授(教養部)
- 昭和45(1970)年4月 静岡大学教授(教養部)
- 昭和49(1974)年3月 静岡大学退職
- 昭和49(1974)年4月 ニュージーランド国立オーカランド大学名誉客員研究員
- 昭和61(1986)年4月 静岡大学教授(理学部)
- 昭和63(1988)年3月 定年により静岡大学退職
- 昭和63(1988)年5月 ニュージーランド国立オーカランド大学名誉客員研究員

### 学位

昭和46(1971)年3月 理学博士 名古屋大学

論文名："Miocene ultrabasite in Setogawa Zone, Central Japan"

### 海外出張

昭和43(1968)年12月～昭和44(1969)年2月 オーストラリア・ニュージーランド・アメリカ合衆国  
(ハワイ)へ出張  
昭和45(1970)年2月～3月 連合王国・イタリアへ出張  
昭和51(1976)年6月 アメリカ合衆国 (ZEOLITE '76 会議参加)  
昭和53(1978)年8月 オーストラリア (ARRB Symposium 参加)  
昭和55(1980)年12月 オーストラリア (Australia Geological Convention 参加)  
昭和56(1981)年2月～6月 オーストラリア (CSIRO Division of Building Research に客員研究員  
として所属)  
昭和61(1986)年8月～9月 ニューカレドニア・ニュージーランド(研修・調査)  
昭和62(1987)年8月 ニューカレドニア・ニュージーランド(研修・調査)

### 社会的活動他

昭和39(1964)年～昭和49(1974)年 静岡県文化財専門委員  
昭和42(1967)年～昭和49(1974)年 静岡県温泉審議会委員

## 業 績 目 錄

### 著 書

御岳研究 (自然編), 御岳駒ヶ岳総合調査委員会編－御岳火山の地質－信濃毎日新聞社, 120p., (1958).  
鉱物学入門, 理工図書 (東京), 129p., (1960).  
静岡の地学, (土 隆一等と共に著), 静岡教育出版社, 550p., (1978).  
ニュージーランドの自然と文化, 静岡新聞社, 159p., (1988).

### 論文・報告

鯨島輝彦 (1947), 光学性正の角閃石. 地質雑, **55**, 138.  
鯨島輝彦・杉村 新 (1952), 大島三原山火山1950～1951年の溶岩の性質. 地質雑, **58**, 73-74.  
SAMESHIMA, T. (1952), A sorting of ultrabasites by their residual secretions. *Rep. Liber. Arts Fac., Shizuoka Univ.*, **3**, 50-51.  
SAMESHIMA, T. (1953), On the refractive indices of crystals (1). *Rep. Liber. Arts Fac., Shizuoka Univ.*, **4**, 31-36.  
SAMESHIMA, T. (1953), On the regularity of the activities of Fuji volcanic zone. *Jour. Geol. Soc. Japan*, **59**, 75-78.  
SAMESHIMA, T. & R. MINAMI (1953), An X-ray study on the phosphorite mineral. *Jour. Geol. Soc. Japan*, **59**, 87.  
SAMESHIMA, T. & M. MUTSUURA (1954), Jaishi volcano, south Izu. *Rep. Liber. Arts Fac., Shizuoka Univ.*, **5**, 43-45.  
SAMESHIMA, T. (1955), Ueno volcano, a minor volcano in the Atera fault valley near Sakashita town, Gifu Pref., Central Japan. *Rep. Liber. Arts Fac., Shizuoka Univ.*, **7**, 57-60.

- 鮫島輝彦 (1955), 伊豆半島南部の地質. 地学しづはた, **8**, 15-18.
- 鮫島輝彦 (1957), 瀬戸川累層群中の超塩基性岩(1). 地学しづはた, **12**, 17-19.
- 鮫島輝彦 (1957), 伊豆七島の地質. 東京都緑地公園部資料, 30p.
- 鮫島輝彦 (1957), しじみ塚遺跡出土大珠の鉱物学的所見. しじみ塚第一次発掘調査報告書, 静岡県, 67-68.
- 望月勝海・加藤芳朗・鮫島輝彦 (1959), 大沢汎濫原調査報告, 富士大沢調査報告(1), 静岡県, 51-67.
- 鮫島輝彦 (1960), 瀬戸川累層群中の超塩基性岩(2). 地学しづはた, **21**, 15-17.
- 鮫島輝彦・松井孝友 (1960), 静岡県賀茂郡南伊豆町差田付近の地質. 地学しづはた, **23**, 16-17.
- 望月勝海・鮫島輝彦 (1960), 大沢汎濫原及び下流地域の調査結果. 富士大沢調査報告(2), 静岡県, 37-48.
- SAMESHIMA, T. (1960), Picrite basalt dikes in the Palaeogene formation in central Japan. *Rept. Liber. Arts Fac., Shizuoka Univ.*, **3**, 77-80.
- 鮫島輝彦 (1961), 瀬戸川累層群中の超塩基性岩(3). 地学しづはた, **24**, 18-21.
- 望月勝海・鮫島輝彦 (1961), 大沢扇状地の地質及び大沢崩壊・大沢汎濫の対策について. 富士大沢調査報告(3), 静岡県, 47-56.
- 鮫島輝彦 (1961), 静岡市平山産 *Lepidocyclina makiyamai*. 地学しづはた, **25**, 15-16.
- SAMESHIMA, T. & M. IBARAGI (1962), Fine structures of *Lepidocyclina nipponica* from Shimo Shiraiwa, Izu, Central Japan. *Rep. Liber. Arts Fac., Shizuoka Univ.*, **3**, 147-149.
- 鮫島輝彦・内田俊太郎 (1963), 静岡市西部駿河峰付近の瀬戸川層中の石灰岩層とこれに伴う巨斑晶玄武岩層. 地学しづはた, **30**, 26-28.
- 鮫島輝彦・今村孝司 (1963), 静大2号復円反射測角器. 地学しづはた, **31**, 10-11.
- 鮫島輝彦・和田正俊 (1964), 静大式微小硬度計. 地学しづはた, **32**, 7-10.
- 鮫島輝彦 (1966), 富士火山帯の最近の活動. 静岡地学, **8**, 3-7.
- 鮫島輝彦 (1966), 伊豆半島の地学案内. 静岡県地学会資料, **9**, 17p.
- 鮫島輝彦 (1967), 大崩海岸の地学案内. 静岡県地学会資料, **11**, 7p.
- 伊藤通玄・岩橋 徹・鮫島輝彦・土 隆一 (1967), 伊豆半島の第三系. 静大地学研報, **1**, 5-9.
- 鮫島輝彦 (1968), 安倍川流域の地学案内. 静岡県地学会資料, **14**, 16p.
- 伊藤通玄・岩橋 徹・鮫島輝彦・土 隆一 (1968), 伊豆半島の地質に関する諸問題. 日本地質学会資料.
- 鮫島輝彦・岩橋 徹・黒田 直 (1968), 伊豆半島の地熱開発に関する基礎調査報告書. 88p., 静岡県.
- 鮫島輝彦 (1969), 伊豆長岡温泉の地熱構造. 静大教養研報, **5**, 39-45.
- 鮫島輝彦 (1969), 引佐山地の地質. 教師の広場, **1**, 103-111.
- 鮫島輝彦 (1969), 富士山の地学案内. 静岡県地学会資料, **18**, 22p.
- 鮫島輝彦 (1969), 静岡県下田町志戸産湯河原沸石. 地学研究, **20**, 71-78.
- 鮫島輝彦・小沢邦雄 (1970), 热海温泉の地熱構造. 静大教養研報, **7**, 159-168.
- 鮫島輝彦・小沢邦雄 (1970), 修善寺温泉の地熱構造. 静大地学研報, **2**, 37-42.
- 鮫島輝彦・岩橋 徹 (1970), 下賀茂温泉の地熱構造. 静大地学研報, **2**, 31-36.
- 鮫島輝彦 (1970), 稲取温泉の地熱構造. 静大教養研報, **6**, 41-44.
- 鮫島輝彦 (1970), ニュージーランド訪問記. 名古屋地学, **26**, 80-89.
- 鮫島輝彦 (1971), 伊豆半島の温泉. 静岡地学, **19**, 11-14.
- 山田 治・和田秀樹・鮫島輝彦 (1971), 合成メタノールによる  $^{14}\text{C}$  液体シンチレーション年代測定法

- と本法による富士火山噴出物の年代測定結果。地質雑誌, **78**, 235-239。
- 鮫島輝彦 (1971), 箱根火山の地学案内。静岡県地学会資料, **19**, 17p.
- 鮫島輝彦・伊藤通玄 (1972), 大崩海岸の地質: 大崩海岸の山崩れ災害研究。静大地学研報, **3**, 1-6.
- 鮫島輝彦 (1972), 静岡県の地震災害史。地方史静岡, **2**, 1-37.
- 鮫島輝彦 (1972), 段間遺跡の地質学的所見。河津町見高段間遺跡第二次調査報告書, 河津町教育委員会。
- 甘露寺泰雄・佐藤幸二・鮫島輝彦 (1973), 伊東温泉科学調査報告。75p., 中央温泉研究所。
- 土 隆一編 (1974), 静岡県の地質(静岡県の鉱物の章分担)。135-154, 静岡県。
- SAMESHIMA, T. (1975), Silica indices of volcanoes in and around New Zealand with reference to volcanic zones in the North Island. *N.Z. Jour. Geol. Geophys.*, **18**, 523-539.
- SAMESHIMA, T. (1977), Hydrothermal degradation of basecourse aggregate. *N.Z. National Roads Board. Project B.C. 21*, 90p.
- SAMESHIMA, T. (1978), Zeolites in tuff beds of the Miocene Waitemata Group, Auckland Province, New Zealand. In "Natural Zeolites, Occurrence, Properties, Use". Ed. SAND & MUMPTON. 309-317.
- SAMESHIMA, T., P.M. BLACK & R.F. HEMING (1978), Hydrochemical degradation of greywacke road aggregate. *Austral. Road Research Board Proceed.* 69-83.
- RODGERS, K.A. & T. SAMESHIMA (1978), Clinoptilolite pseudomorphs after calcitic and aragonitic Miocene fossils, Kaipara Harbour, New Zealand. *Mineral. Mag.*, **42**, 410-412.
- SAMESHIMA, T. & P.M. BLACK (1979), Clay index - A simple method of assessing the quality and performance of roading aggregates. *N.Z. Roading Symp. 1979 Paper A*, 1-10.
- BLACK, P.M. & T. SAMESHIMA (1979), An assessment of basalt and andesite road aggregate resources in the Auckland District. *N.Z. Roading Symp. 1979 Paper A*, 11-15.
- SAMESHIMA, T. & P.M. BLACK (1980), Hydrochemical degradation of basecourse and its effect on basecourse performance. *N.Z. National Roads Board. Project B.C. 23*, 125p.
- BALLANCE, P.F., R.F. HEMING & T. SAMESHIMA (1980), Petrography of the youngest known Murihiku Supergroup, New Zealand: Latest Jurassic arc volcanism on the southern margin of Gondwana. *Proc. Fifth Intern. Gondwana Symp.*, 161-166.
- SAMESHIMA, T. (1982), Stabilization of aggregates with additives and their effect on fines. *N.Z. National Roads Board. Project B.C. 39*, 108p.
- SAMESHIMA, T. & S.J. WAY (1982), Exchangeable bases of swelling clays in Melbourne basalts. *Austral. Road Research*, **12**, 166-172.
- YOKOYAMA, K. & T. SAMESHIMA (1982), Miscibility gap between jadeite and omphacite. *Min. Journ.*, **11**, 53-61.
- 鮫島輝彦 (1983), ニュージーランドと日本。静岡地学, **47**, 3-17.
- SAMESHIMA, T., J.P. PARIS, P.M. BLACK & R.F. HEMING (1982), Clino-enstatite bearing lava from Népoui, New Caledonia. *Amer. Mineral.*, **68**, 1076-1082.
- SANDY, M. & T. SAMESHIMA (1983), A clay-carbonate association, Regal basalt quarry, Braybrooke, Victoria. *Austral. Mineral.*, **41**, 227-230.
- SAMESHIMA, T. (1983), Chemical stabilization of roading aggregate - A clay mineralogical approach. *Trans. Inst. Prof. Engineers*, **10**, 46-51.

- BALLANCE, P.F., M.R. GREGORY, G.W. GIBSON, G.C.H. CHAPRONIERE, A.P. KADAR & T. SAMESHIMA (1984), A late Miocene and early Pliocene upper slope to shelf sequence of calcareous fine sediments from the Pacific margin of New Zealand. *In* Fine-grained sediments: Deepwater processes and facies. Ed. STOW & PIPER, 331-342.
- SAMESHIMA, T., G.S. HENDERSON, P.M. BLACK & K.A. RODGERS (1985), X-ray diffraction studies of vivianite, metavivianite, and baricite. *Mineral. Mag.*, **49**, 81-85.
- SAMESHIMA, T. (1986), Ferrierite from Tapu, Coromandel Peninsula, New Zealand, and a crystal chemical study of known occurrences. *Mineral. Mag.*, **50**, 63-68.
- 里村幹夫・檀原毅・長谷川靖・遠山忠昭・志知龍一・鮫島輝彦・井野盛夫・岩田孝仁・萩原利明 (1987), 相良および上坂地殻変動連続観測施設の概要. 静大地球科学研報, **13**, 157-164.
- 鮫島輝彦 (1988), 富士山・大沢崩. みずのわ, **66**, 14-17.